

第1回 日本軍「慰安婦」博物館会議、 日本で開催決定！

ご参加・ご支援のお願い

日時：2017年4月1日(土) 13時半～(13時開場)

場所：在日本韓国YMCA・地下スペースY 参加費：1000円

海外からの参加博物館・団体(予定)

- ナヌムの家 日本軍「慰安婦」歴史館 (韓国・広州、1998年開館)
- 民族と女性歴史館 (韓国・釜山、2004年開館)
- 戦争と女性の人権博物館 (韓国・ソウル、2012年開館)
- ヒウム日本軍「慰安婦」歴史館 (韓国・大邱、2015年開館)
- 南京利濟巷慰安所旧址陳列館 (中国・南京、2015年開館)
- 中国「慰安婦」歴史博物館 (中国・上海、2016年開館)
- ロラズ・センター (フィリピン・マニラ、2008年開館)
- AMA博物館 (台湾・台北、2016年12月開館予定)



山西省日軍「慰安婦」幸存者趙潤梅 (1925-2008)。1941年4月被關入地緣邊密洞，受日軍凌辱達40天之久。被關時精神失常，左臂外側被木床磨出一大深溝，下身神志無法行走。因無法生育被前夫拋棄，與後來的丈夫領養一女。

——李曉方：《世紀呼喚——67位幸存慰安婦實錄》

Zhao Runmei (1925-2008), a surviving "Comfort Woman" in Shanxi Province. She was abducted to a cave-dwelling beside a gun tunnel and was abused by the Japanese soldiers for over 40 days. When she was ransomed, she suffered from mental disorder and the outer side of her left arm had a large hole which was rubbed by the wooden bed. She couldn't even walk because her private parts had swollen and festered. She was dumped by her ex-husband as she couldn't give him a child. She later adopted a girl with her current husband.

——The City of the Century: A Record of 67 Surviving "Comfort Women" by Li Xiaofang



山西省的特色建築窑洞也成了日軍慰安所

——苏智良 供图

Traditional cave dwellings of Shanxi Province became "Comfort Stations" for the Japanese army

Picture provided by Su Zhiliang



主催：第1回日本軍「慰安婦」博物館会議実行委員会
 連絡先：アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam) 気付
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 AVACO ビル 2F

ご支援をお願いします！

第1回 日本軍「慰安婦」博物館会議

主旨説明

1991年8月に韓国の^{キムハクスン}金学順さんが日本軍「慰安婦」として名乗り出てから、すでに25年が経ちました。この間、アジア各国から多数の被害者が名乗り出て、日本軍の組織的な関与を裏付ける公文書も発見されましたが、日本で「慰安婦」被害に関する理解が深まっているとは言えません。それどころか、歴史修正主義的な主張がネット上だけでなく、マスコミでも広まるようになって、日本軍「慰安婦」の事実に向き合おうとする姿勢は、25年前と比べて弱まっているとさえ感じられます。

さらに2015年12月、日韓両政府が「慰安婦」被害者の意思を聞かずに「合意」したことをもって、「慰安婦」問題がすべて解決したかのような雰囲気メディアに広がっています。このようななか、「慰安婦」被害の実態とその歴史を伝える博物館の役割は、次世代への平和・人権教育という目的だけでなく、被害女性の被害回復のためにも、極めて重要になってきました。

日本軍「慰安婦」博物館は、1998年の「ナヌムの家 日本軍「慰安婦」歴史館」を皮切りに、韓国、日本、中国、フィリピンに設立され、2016年12月には台湾で開館するなど、大きな展開を見せています。各館では独自のコンテンツを制作していますが、その活動や展示には工夫がこらされており、互いに様々なヒントを与えあってきました。そこで、博物館同士でそれぞれの活動や展示プロジェクトの情報を共有し合い、連携した活動を起こしていく場として日本軍「慰安婦」博物館会議を開催することになりました。

日本では、2005年にアクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)が開館して11年が経ちました。しかし、安倍政権下で「慰安婦」に関する事実の否定や捏造が一層激しさを増すなかで、加害国日本の市民こそ、「慰安婦」の事実を学ぶ必要があると思います。そこで「慰安婦」などなかったことにしようとする風潮への批判も込めて、第1回日本軍「慰安婦」博物館会議を日本で開催します。

会議では、各博物館の活動を紹介し、日本軍「慰安婦」の歴史を伝えていくさまざまな取り組みを報告していただく予定です。ぜひ、多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。

賛同・カンパのお願い

第1回 日本軍「慰安婦」博物館会議の準備・開催には約200万円の出費を予定しています。この会議の主旨に賛同いただける団体・個人を募ります。カンパもぜひよろしくお願いいたします。

<賛同金 1口> 団体:5,000円 個人:1,000円

<振込先>

郵便振替口座 00110-2-579814

加入者名「女たちの戦争と平和人権基金」係

銀行口座 三菱東京UFJ銀行渋谷支店 普通口座 3345859
特定非営利活動法人 女たちの戦争と平和人権基金

*「博物館会議賛同」「博物館会議カンパ」と明記のうえ、賛同公表の可否をお知らせください。

*銀行振込の際は、お名前の漢字と公表可否確認のため、wam事務局までメールでご一報いただくと助かります。wam@wam-peace.org

会場へのご案内



住所：〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
電話：03-3233-0611